

# 神小だより 第6号



令和5年9月8日

## 2学期がスタートしました。

9月1日(金)2学期の始業式を行いました。1学期の終業式で約束した「健康で自分の命を大切にする。」をみんなが守り、元気に日焼けした顔を見ることができました。もう一つの約束「家のお手伝いをがんばろう」は、できなかった児童も多くいたようでした。夏休みだけでなくご家庭で自分の役割をつくっていただければありがたいです。

また、1学期の始業式でも話した「自分の好きなどころを見つけよう」「友だちの良いところを見つけよう」は、1年を通じてのテーマです。行事も多く1年で一番長い学期だからこそ、このテーマが達成できるようにがんばっていこうと話しました。

夏休みの出来事として5年生の牟岐少年の家での活動の様子や6年生男子が出場した県水泳記録会の様子についても紹介しました。



牟岐少年自然の家(5年生)



県水泳記録会(6年生)

## 9月1日は防災の日。避難訓練を実施しました。

9月1日(金)は防災の日。特に今年は関東大震災から100年目ということで、全国的にも非常に関心が高まっています。

始業式のあと「防災の日」についてのお話をしました。また、スマイル班、登校班などに集合する訓練を通して、早く集まるために自分にできることを考えました。「班長の顔を覚えておくこと」や「集まるときにしゃべらないこと」など、自分にできることを増やしていこうと呼びかけました。

9月7日(木)には、地震を想定した避難訓練を実施しました。今年は休み時間に地震が起こった想定で行いました。周りに先生や大人がいなくても安全な場所まで、自分たちだけで避難できることを目標に、事前に丁寧に避難方法を確認した上で、訓練日時も周知しない状態で実施しました。全員が真剣な表情で取り組んでいました。

テーマは、「自助 ~助けてもらう自分から、自分の命を守ることでできる自分に成長する~」です。ご家庭でのお手伝いをお願いしているのも、そのための訓練です。ご協力よろしくお願いいたします。



## 鮎喰川自然体験に行ってきました。

9月5日(火)、1, 2年生が鮎喰川自然体験に行ってきました。第2大埜地橋の下の川原で、大久保の中南文良さんを講師にお招きし伝統のゴロ引き漁に挑戦しました。初めての体験でジンゾクがたくさんとれて歓声が上がっていました。中南さんが捕獲した、モクズガニも見せていただきました。児童の自然体験が少なくなる中で貴重な体験でした。中南さん、つなぐ公社のみなさん、ありがとうございました。





## 楽焼きの作品づくり(成形)をしました。

9月8日(金)校内楽焼きコンクールに向けて各学級で作品づくりに挑戦しました。今年度の各学年の制作テーマは、1年(さかなのかべかざり)、2年(ふた付き小物入れ)、3年(城・塔)、4年(鉛筆立て)、5年(シーサー)、6年(はにわ)になっています。1～

4年生は、素焼きした後で釉薬を塗り、もう一度焼いて仕上げます。5・6年生は、テラコッタ粘土を使っているの、素焼きをして完成です。成形した作品は、これから約1か月乾燥させ、10月11日(水)に焼成する予定です。

※3,5,6年生は9月12日(火)に成形の予定です。



代表委員会

## 運動会のスローガンが決まりました。

9月7日(木)代表委員会を開いて、各学級から持ち寄せられた意見をもとに、児童会委員、各委員会の代表、各学級の代表で令和5年度の運動会のスローガンを次のように決定しました。

ぜんりょくしつそう      かがや      せいえん  
**「全力疾走！ みんなで輝け 92人の声援」**

## 運動会の練習も始まっています。

9月23日(土)の運動会に向けて、練習や準備が始まりました。



阿波踊り(桜花連の方のご指導)



1年生、初めての入場行進・徒競走、そして見守る2年生



1, 2, 3年生のダンス。完成間近です!!



4, 5, 6年生タイヤ争奪戦。迫力ある戦いに期待!!

### 運動会に関するお知らせ

9月1日(金)発出のお便りで、高齢者用テントを3張り用意しておく予定で連絡させていただきましたが、今年度は各地方別のテントを立てることですので、高齢者の方もそれぞれの地方別テントでお過ごしいたきますようお願いいたします。

### 校長室から ～自然体験の重要性について～

保護者のみなさん、表面一番上のてるてる坊主の写真を見ていただけただけでしょうか。この写真は、9/4から2年生の教室の窓にかわいらしく並んでいたものです。鮎喰川自然体験を楽しみにしている2年生がみんなで作ったそうです(願いが叶って、晴れました)。中南先生やつなぐ公社の方々には、計画から準備、そして当日の指導まで本当にお世話になりました。神領小学校では、このような体験活動がたくさんあります。その多くは地域の方や団体の方の主導で計画してくださっています。もちろん学校は活動のねらいや期待する効果についてお話しさせていただきます、子どもたちの成長に何が一番良い活動になるか協議させていただいています。

体験活動について、文部科学省中央教育審議会答申で次のようなことが一例として述べられています。①「社会を生き抜く力」を育てる。②自然体験の多い子どもは全国学力学習状況調査においても正答率が高い傾向にある。③今の子どもたちをめぐる環境は、心や体を鍛えるための負荷がかからないいわば「無重力状態」であり、健全育成にとって深刻な事態に直面している。④自然の中で、これまで触れたことのない物にも触れながら、その存在を認める経験を積むことで、大人になり思い通りにならない他者や状況に直面したときも、うまく対応していくことができるようになると思われる。

保護者のみなさんの子どもの頃に比べると、やっぱりお子様の自然体験や生活体験は減っているでしょうか?